

令和6年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和6年2月21日

法人名	社会福祉法人 桜友会
代表者	理事長 高井 澄恵
事業所名	ほほえみごこち田原
記入者	森 貴志

法人・事業所の 特徴	同一建物内にグループホームを併設しており、また近くで同法人による特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービスセンター・ケアハウス・訪問介護事業所・居宅介護支援事業所・グループホーム・認知症対応型通所介護を併設しているので、ご本人の状態に応じた総合福祉サービスをご利用いただくことができます。小規模多機能型居宅介護では通い、泊り、訪問サービスを中心に組み合わせをし、継続した在宅サービスを受けていただけるよう支援いたします。3つのサービスを事業所を変えずに1つの事業所で受けられ、ご家族の負担や不安を解消しサービスの選択の自由度が高くなり、同じスタッフにて対応ができる為、信頼関係も築けます。
---------------	---

出席者	関市高齢福祉課：古田千夏様 地域包括支援センター：伊藤志代様 九野施設長：民生委員長：加藤啓一様 ほほえみごこち田原主任：森 貴志
-----	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員からの意見を求める際は、小グループに分け職員同士で考えて意見を求めていくようにしていく。なかなか発言は難しいが、少人数であれば考え、意見は言えるようにしていく。	なかなか職員自ら発言をすることができていない。自分自身の関わっていることは、進んで発言をするが、関わらなかったり、分からないことなどは下を向き無口になることも多くある。ミーティング・小ミーティング・勉強会でも同様である。	・意見が無いわけではなく、話したい又は話しが得意な職員ばかり話してしまっている為、話しぶらい方にも発言を促す声掛けが必要。	進行している職員が、話しぶらい職員が話す時間ができるように配慮する。全員が発言しなければならない進行を行い、皆が意見を言えるようにしていく。
B. 事業所の しつらえ・環境	自部署に係りがいるため、環境面に関しての係りにて年間通しての取り組みとして行っていくようにする。施設外周の花壇など法人内・ボランティアの方に前もって依頼し、お願いしていく。	設置する必要がある災害備蓄品用倉庫や故障車買替は行う事ができたが、施設外周の環境面に関し、なかなか整備することができていなかった。事業継続するための。エアコン機器等のメンテナンスも含め年間計画など事前に組み入れる等しなくてはいけない。	フロア排出抑制法によりエアコンメンテナンスの定期的な業務用エアコン対して年4回の簡易点検が義務付けられている。当事業所も法人としてのメンテナンスの基準を作り点検を行いたい。	自部署に係りがいるため、環境面に関しての係りにて年間通しての取り組みとして行っていくようにする。施設外周の花壇など法人内・ボランティアの方に前もって依頼し、お願いしていく。
C. 事業所と 地域のかかわり	外に出向くことを第一に考え、その中でも認知症カフェへの参加は継続し行っていく。小規模の行事の一貫として年間計画に組み入れていくことで、勤務調整・参加する職員、利用者が全員参加していける。	2ヵ月に1回以上の外出レク及び田原みんなのおうちへの参加、近隣への散歩を再開した。職員の勤務に限りはあるが、ボランティア等の地域資源を活用する事で、地域の方からも関わりやすい環境を作る必要がある。	本年度より田原小学校、田原保育園、近隣地域の大学生3名、各種ボランティア等の地域の方々との関わりを再開する事ができている。	田原みんなのおうちをはじめ、地域神社の夏祭りや近隣の学校や地域の民生委員とも連携をはかる。学校行事の年間計画と合わせる為、年末前に来年度の予定の問い合わせを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	全職員がご家族と関わりを持つようにして、その中で情報の交換を行い、そしてケアマネと情報共有し、アセスメントは最新の状態にする。ケアプランは状態に合わせて作成していくことで、利用者に合わせたケアが実現していける。	送迎時、家族迎え時等、家族と関わる機会も多くあり、色々な情報、利用時の様子を伝えている。その他にも、職員同士の情報共有のミーティング帳と申し送りノートを活用していることで、情報の漏れもなく伝わっている。	他に活用できるインフォーマルサービスはないか、送迎時の利用者の隣近所の方で出会った時にコミュニケーションをはかってみても良いと思う。	他に活用できるインフォーマルサービスはないか、送迎時に家族や地域の方と話す意識を持ち、利用者に合わせたケアが実現していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	地域で困っている方など支援が必要としている方がいないか情報を得ていくようにする。 運営状況・業務内で困ったことなど報告し、アドバイスを頂き、円滑に業務出来るようにしていく。	新型コロナ感染をしてしまった月もあるが、今年度は通常の会議が開催できている。年間を通して、会議内の情報はミーティング等で報告している。現在の小規模の活動状況、アドバイスを頂き、登録人数を増やすように努めている。	運営推進会議では民生委員、市役所職員から有益なご意見を頂けている。	運営状況・業務内で困ったことなど報告し、アドバイスを頂き、円滑に業務出来るようにしていく。 地域で必要とされている支援が何か情報を得ていくようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	田原施設でも備蓄品を何日分保管できるように場所の確保をしていく。災害が発生した際にどうしていかなければいけないか、どのように行動するのが良いのかを職員個々で考えれるように、内部研修・外部研修へ積極的に参加し、他職員への伝達を行い、共通認識を持つようにする。	防災備品を置く倉庫を設置すると共に、避難訓練では避難後の事業継続を想定した必要物品の見直しが行われている。 避難訓練の反省として、非常時や避難訓練が年間2回だけでは、急な災害時に全職員が冷静に訓練を思い出せない可能性があるという意見も上がっている。	年2回の訓練だけでは少ない可能性がある。 レクリエーションの中で避難訓練や緊急時の対応を想定した訓練を行ってはどうか。	年6回(奇数月)防災・地域で困っている方など支援が必要としている方がいないか情報を得ていくようにする。訓練を行いう事に変更する。 通常の避難訓練だけでは行えていない緊急時対応等の職員が不安に思っている訓練を実施する。常に自分で考え冷静に行動移す事を意識する。